

報道関係各位

豊田プレス工業とフリックケア カンバンを用いた「溶接生産実績サービス」を共同開発 －溶接機の製造数やエクセル入力を自動化し、毎月の生産改善サービスも提供

令和元年(2019年)6月20日
豊田プレス工業株式会社
フリックケア株式会社

豊田プレス工業株式会社(愛知県豊田市、代表取締役社長 加古 浩史)、フリックケア株式会社(東京都台東区、代表取締役社長 工藤純平)の両社は、溶接部品の生産記録を少ない工数で自動化するサービスを6月30日より販売すると発表しました。

溶接工程で製造された個数を作業日報に手書きすることは多くの現場でされており、その後手書きした生産表をエクセルに入力またはPDFで取り込みする会社も数多くあります。特に自動車分野など多品種少量生産な業界では長年負担がかかってきました。

今回、発売する「溶接実績管理サービス」はスマートフォンを活用し社内システムを変更せずとも、生産数を自動化出来るサービスになります。具体的な導入プロセスとして現場に精通したフィールドエンジニアが訪問し、自動化したい業務内容をヒアリングした後、環境に合わせた自動化ツールを提供いたします。さらに溶接業界に精通した生産改善コンサルタントが蓄積されたデータを基に生産改善のご提案をセットになったのが本サービスの特徴になります。

今まででしたら生産の見える化をするためにIoTシステムを導入しつつ、さらに現場改善コンサルタントの支援を別々に受ける必要がありました。また価格は初期費用なし、月額200,000円のみで「データ取得の自動化」と「生産改善のご提案」もセットになっていまして、中小製造業でも導入しやすい価格帯を実現致しました。

元々、フリックケアは、各製造現場のセンサデータ解析などの事業をしてきて、この分野の解決事例や知見が多くあり、豊田プレス工業は、溶接ラインの可視化と省力化を実際に活用してきたところ、豊田市が主催する「ものづくりベンチャーとのマッチング事業」で両社が知り合い今回の開発のきっかけになりました。(※別紙資料)

豊田プレス工業とフリックケアはともに、日本の強い技術を持った企業と現場の課題共有や実証試験をしながら、今後も挑戦する製造業のために製造現場の課題発見と解決に取り組んでいきます。

豊田プレス工業株式会社

1949年創業で主に自動車部品のプレス・溶接業務を手掛ける。創業以来、豊田鉄工株式会社（豊鉄）との取引が中心で社内ではカンバンなどに代表されるTPS（トヨタ生産方式）を導入。
(<http://www.toyopure.co.jp/>)

フリックケア株式会社

通信会社出身者などが2015年に創業した製造業向けITサービス提供会社。音声認識による省力化サービスや各種センサーを使った予兆検知サービスなどを提供。 (<http://flickcare.com/>)

（※）豊田市主催の「ものづくりベンチャーとのマッチング事業」DemoDay
今回のサービスは豊田市のDemoDayで成果報告をさせていただいたサービスを元に改良しながら共同で開発を致しました。



＜本件リリースへのお問い合わせ先＞

豊田プレス工業株式会社（広報担当：加古）

代表：0565-32-3588

<http://www.toyopure.co.jp/>

フリックケア株式会社（広報担当：工藤）

直通：050-3591-7090

<http://flickcare.com/>